

～ ～ ～ 海洋島 ～ ～ ～

第4巻 第4号 (通巻33号) 東京都小笠原水産センター

2002年 7月 22日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

キンメダイは小笠原で産卵していた

東京都水産試験場大島分場調査船「みやこ」
小笠原海域からキンメダイ卵の採集に成功！

鮮やかな朱色の魚体とその名のとおり金色に輝く大きな目を持つキンメダイは、深海域の魚類資源として伊豆諸島海域などでは今やなくてはならない重要な水産生物のひとつとなっています。多獲性魚類で美味しく、漁場や漁獲が比較的安定しており、魚価もソコソコよいので漁業者にはたいへん魅力的な魚です。従来、小笠原海域ではキンメダイは生息してはいるものの量的に少なく、脂の乗りもあまりよくないため、小笠原産の水産資源としての価値は高くないだろうと漠然と考えられてきました。しかし、本誌第13号(2000年7月発行)でも少しご紹介しましたように、まとまった量の漁獲が可能であり、色・サイズ・肉質のいずれも本州市場で十分に通用する品質であることが最近の調査でわかってきました。出荷・流通、漁場開拓など、これから取り組むべき課題は多くありますが、キンメダイは将来有望な水産資源のひとつと考えてよいと思います。

調査船「興洋」が小笠原海域で採集したキンメダイ成魚を解剖してみると、生殖腺の発達状況からどうやら夏季に産卵するようです。これは伊豆諸島海域と同じです。ただし、小笠原海域で本当に産卵しているのか、産卵しているとしたら場所はどこなのかということとはまったく不明でした。水産生物が生まれて成長し、また子どもを産んでいくことを再生産といいますが、この再生産の舞台が小笠原海域に整っているということは重要な意味を持ちます。なぜなら、繁殖集団と産卵海域の健全性はキンメダイ資源の維持を担保するものになるからです。産卵された卵やふ化した仔魚がみつければ、「キンメダイがいる」だけでなく「キンメダイが繁殖している」ことの証明になります。

そこで、今月初旬、水産センターでは東京都水産試験場の広域調査船である「みやこ」(大島分場)と共同で、七島・硫黄島海嶺においてプランクトンネットによる卵・仔魚採集調査を実施しました(写真1)。使用したプランクトンネットはマル稚ネットと呼ばれるものです。このネットを約2ノットで10分間、表層水平曳きしました。得られた試料を船上で薬品固定し、水産センター実験室



写真1 プランクトンネットによる卵・仔魚採集調査

に持ち帰り顕微鏡下で査定しました。果たして、、、ありました！西之島周辺のサンプルからオレンジ色の油球が特徴的な直径1mm程のキンメダイ卵(写真2)が多数みつかったのです。

これは小笠原群島周辺海域からの初記録となりました。

採集したキンメダイ卵は、そのほとんどがいわゆるB期卵でふ化後1日程度のものでした。つまり、卵の採集ポイント周辺が産卵海域と特定できたわけです。

キンメダイは水産資源として高い価値を持ちながらも、小笠原ではこれまであまり利用されていませんでした。将来の新しい水産資源としての利用拡大を想定して、水産センターでは今後も東京都水産試験場などと連携し、キンメダイ資源を対象とした多角的な調査研究を継続していきたいと考えています。

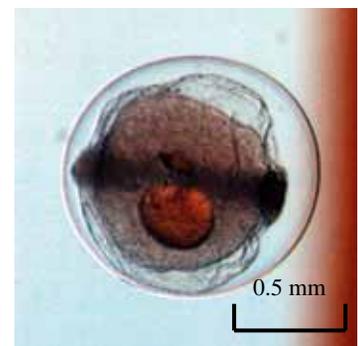


写真2 キンメダイ卵